

[ふるさとの川・荒川づくり協議会 設立趣旨]

荒川は、東吾妻山等の山々から多量の土砂を供給して広大な扇状地を形成し、現在の生活基盤をつくってきました。

また、荒川からは多くの用水路が引かれ、私達の生活や農業に多くの恩恵をもたらし、自然環境を守ってきました。

その反面、急流河川である荒川は、古くから地域に甚大な水害ももたらし続けてきました。

福島市西部の開発は、この荒川の水害との闘いの歴史であり、この過程で先人達は霞堤や水防林などの防御策を講じてきました。

これらは現在の荒川を特徴づける治水の歴史を今に伝える歴史的資源であり、また、水林自然林に代表される水防林は市民に潤いをもたらすとともに、吾妻山山系を背景とした良好な景観を創り出しています。

こうした歴史的・景観的資源を大切にするとともに、荒川をより良い環境として後世に残し、真の「ふるさとの川」として愛される荒川とするために、地域住民はもとより、多くの人々が参加して美しい調和のとれた川づくり、まちづくりを進めることが重要です。

そのため、これらについてみんなで意見を出し合い考える ふるさとの川・荒川づくり協議会「福島荒川ネットワーク“f a n”」を設立するものです。



2. 荒川資料室開所式

○平成10年7月16日（木）

平成9年まで市民の皆様にジギスカンハウスとして親しまれてきた「赤トンボ」が改築され、「荒川資料室」として生まれ変わりました。

開所式は7月16日午前10時に佐倉小学校の4年生も参加して行われました。開所式では来賓の祝辞、テープカットの後、半沢光夫副会長による講話が行われました。

荒川資料室には荒川沿いの「見どころ」や橋りょうの写真、土石流の解説、ダム模型等が展示され、荒川を総合的に学べるようになっています。市民にも好評で、平成10年度には約3500人の来館がありました。

